

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合事象が対象になります。

平成22年3月5日に不適合管理委員会で審議された不適合事象は、下記のとおりです。

区分 : 該当なし

区分 : 該当なし

区分 : 該当なし

その他 : 10 件

NO.	号機等	不適合件名	グレード	備考
1	1号機	原子炉再循環ポンプ(A)用電動機・発電機セット流体継手内側インペラ軸受温度(1箇所)において、温度記録計の指示値不良(オーバースケール)が認められたため、当該記録計及び温度検出器を点検。(関連温度パラメータに異常なし)	D	
2	2号機	原子炉建屋大物搬入口付近(屋外)ページング用電線管修理時、ケーブルが引き抜けないことが認められたため、対応検討。	D	
3	2号機	タービン補機冷却系熱交換器(B)電解鉄イオン注入弁において、シートリークが認められたため、当該弁を点検補修。	D	
4	2号機	原子炉補機冷却系第2中間ループ電解鉄イオン供給管ベント弁において、閉固着が認められたため、当該弁を点検補修。	D	
5	2号機	原子炉補機冷却系第2中間ループ熱交換器(B)電解鉄イオン注入弁及び同鉄イオン供給止め弁において、シートリークが認められたため、当該弁を点検補修。	D	
6	3号機	変圧器防災地下タンク排水ポンプ用配管において、腐食が認められたため、当該配管を交換。	D	
7	4号機	原子炉建屋天井クレーン点検時、横行レールの繋ぎ目間隔に管理値外れが認められたため、対応検討。	D	
8	1.2号廃棄物処理設備	換気空調系蒸気発生器用ヒータ点検時、ヒータケーブル用端子台の一部に破損が認められたため、当該端子台を交換。	D	
9	3.4号廃棄物処理設備	廃棄物処理補機冷却海水系(B)吐出圧力計において、検出元弁のシートリーク及びテスト弁にグランドリークが認められたため、当該弁を点検補修。	D	
10	その他	水処理設備用活性炭ろ過器(B)において、差圧高(詰まり)事象が認められたため、当該ろ過器を点検補修。	D	

【凡例】

公表区分	事象の概要	主な具体例
区分	法律に基づく報告事象等の重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・計画外の原子炉の停止 ・発電所外への放射性物質の漏えい ・非常用炉心冷却系の作動 ・火災の発生 など
区分	運転保守管理上、重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のうち、法律に基づく報告事象に該当しない軽度な場合 <ul style="list-style-type: none"> * 安全上重要な機器等の機能に支障を及ぼすおそれのある故障 * 管理区域内の放射性物質の漏えいが継続している場合 など ・原子炉への異物の混入 など
区分	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点から速やかに詳細を公表する事象	<ul style="list-style-type: none"> ・計画外の原子炉または発電機出力の軽度な変化 ・原子炉の安全、運転に影響しない機器の故障 ・原子力発電設備に係わる機器に影響を及ぼす水の漏えい ・圧力抑制室等への異物の混入 ・原子力発電設備に係る業務における人の障害 など
その他	上記以外の不適合事象	<ul style="list-style-type: none"> ・日常小修理 など

【原子力発電所における不適合事象の是正管理】

原子力発電所では、設備の健全性を維持し、安全運転を継続するため、発電所設備の定期検査や運転中の巡視点検、定例試験、点検・修理等を行っております。その中で、「不適合」が発見された場合には、「不適合管理マニュアル」に基づき、必要な是正措置を講ずることとしております。

* 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。

不適合管理グレード分け(不適合管理委員会にて決定)

- A s : 法令、安全協定に基づく報告事象
- : プラントの性能、安全性に重大な影響を与える事象
- A : 国、地方自治体等へ大きな影響を与える事象
- : 定期検査工程へ大きな影響を与える事象
- B : 国の検査等で指摘を受けた事象
- : 運転監視の強化が必要な事象
- C : 品質保証の要求事項に対する軽微な事象
- D : 通常のメンテナンス範囲内の事象
- 対象外 : 消耗品の交換等の事象

(お問い合わせ)

福島第二原子力発電所・広報部・行政広報グループ
電話 0240-30-7802